

# 産地戦略

実施主体 キタクICTハウス部会  
 都道府県 新潟県  
 対象地域 新潟市  
 対象品目 トマト、きゅうり

実施期間 令和5～6年度



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

新潟市北区は県内の中で施設トマト・きゅうりの栽培が盛んな地域である。生産者の高齢化が進んでいるが、後継者が確保されている生産者や農業法人は規模拡大を志向しており、省力化や安定栽培に向け、養液土耕栽培や環境モニタリング機器への関心が高まっている。また、近年は連作による土壌化学性の乱れや青枯病・ネコセンチュウ等の被害拡大しているほか、灰色かび病等の防除価低下などが課題となっている。そこで、環境モニタリングデータを活用した総合的防除や抵抗性品種の導入による化学農薬の低減や土壌診断による化学肥料の低減、自動かん水装置等の導入による作業時間の削減を目指す。

## 現在の栽培体系

主な作業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
トマト	[作業期間]			○は種	△定植	[作業期間]			○は種	○は種	△定植	△定植	
きゅうり				○は種	△定植	[作業期間]							
技術名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュール病害虫防除</li> <li>・土壌くん蒸剤の使用</li> <li>・手動によるかん水等の実施</li> </ul>												

## グリーンな栽培体系

主な作業名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
トマト	[作業期間]			○は種	△定植	[作業期間]			○は種	○は種	△定植	△定植	
きゅうり				○は種	△定植	[作業期間]							
技術名	栽培マニュアルに記載のとおり												

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	7.4	7.4	トマト：5.6ha きゅうり：1.8ha
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	2.1	7.4	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	2.1	7.4	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	2.1	7.4	

## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	スケジュール的防除	▶ 環境モニタリング及び病害虫発生予察に基づく防除	化学農薬の成分回数や防除作業回数の削減
環境 省力	土壌くん蒸剤の使用	▶ 有機物資材による土壌還元消毒等の実施	化学農薬の成分回数や防除作業回数の削減
環境 省力	感受性品種（トマト葉かび病、きゅうりうどんこ病）の利用	▶ 抵抗性品種（トマト葉かび病、きゅうりうどんこ病）の利用	化学農薬の成分回数や防除作業回数の削減
環境 省力	通常ノズルの使用	▶ 静電付加ノズルの使用	化学農薬の成分回数や防除作業回数の削減
環境 省力	化学農薬を使用したコナジラミ類の防除	▶ 行動抑制剤を使用したコナジラミ類の防除	化学農薬の成分回数や防除作業回数の削減
環境 省力	ハウス環境チェックリストがない	▶ ハウス環境チェックリストの作成	化学農薬の成分回数や防除作業回数の削減
環境 省力	施肥基準に基づく施肥	▶ 土壌診断に基づく施肥	化学窒素の使用量の削減
環境 省力	スケジュール的追肥	▶ 環境モニタリング及び生育診断に基づく追肥	化学窒素の使用量の削減
環境 省力	手動によるかん水、液肥施用	▶ 自動かん水装置等の導入	かん水作業等の作業時間の削減

### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	【半促成トマト】化学農薬の使用回数（成分回数）	<b>39</b>	▶ <b>35</b>	4成分回数減
環境 省力	【抑制トマト】化学農薬の使用回数（成分回数）	<b>31</b>	▶ <b>27</b>	4成分回数減
環境 省力	【抑制きゅうり】化学農薬の使用回数（成分回数）	<b>57</b>	▶ <b>53</b>	4成分回数減
環境 省力	【半促成トマト】防除作業回数（回）	<b>16</b>	▶ <b>14</b>	防除作業2回減
環境 省力	【抑制トマト】防除作業回数（回）	<b>16</b>	▶ <b>14</b>	防除作業2回減
環境 省力	【抑制きゅうり】防除作業回数（回）	<b>24</b>	▶ <b>20</b>	防除作業4回減
環境	【半促成トマト】化学窒素の施用量（kg/10a）	<b>30</b>	▶ <b>20</b>	化学窒素1/3減
環境	【抑制トマト】化学窒素の施用量（kg/10a）	<b>16</b>	▶ <b>10</b>	化学窒素1/3減
環境	【抑制きゅうり】化学窒素の施用量（kg/10a）	<b>24</b>	▶ <b>16</b>	化学窒素1/3減
省力	かん水作業等の作業時間の削減（時間/10a）	<b>25.8</b>	▶ <b>14</b>	作業時間6割減

### グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

品目ごとの栽培マニュアルを産地の農業者へ周知し、研修会や現地指導と併せて普及及び定着を図る。

### 関係者の役割

関係者名	農業協同組合	農業普及指導センター		
役割	研修会等の開催 栽培技術指導	栽培技術指導 栽培技術情報提供		

### その他